

全校の児童生徒を対象にしたICT活用実践の推進

～給食指導におけるクラウド活用～
北海道室蘭養護学校 学級数 32 (校長 星野 健史)

□ 実践の概要

栄養教諭、研究担当教諭、情報担当教諭が連携し、全校児童生徒を対象に、給食指導場面においてICTを活用する実践に取り組んだ。「Google Workspace for Education」(以下「Google ドライブ」)に、献立の説明書や調理中の動画等を保存し共有するなど、クラウドを活用した。

1 実践の目的

- ・給食に使われている材料や給食の作り方を知り、食事の喜びや楽しさを感じる。
- ・全国各地の郷土料理や世界の料理を知り、様々な食文化に触れる。
- ・タブレット端末の基本操作、提示される情報への注目と読解ができる。
- ・給食に対する自分の思いや考えを表現したり、分かりやすく伝えたりする。
- ・情報活用能力や言語能力の育成、食育の充実を図る。



【栄養教諭が作成した
「給食のお便利」(一部)】

2 実践内容

(1) 実施計画

関係する三者(栄養教諭、研究担当教諭、情報担当教諭)で役割分担を行い、実施に向けて準備を行った。栄養教諭は、献立の説明書の作成や調理中の動画撮影・編集、研究担当教諭は児童生徒向けのタブレット端末の操作マニュアルの作成、情報担当教諭はクラウドの管理やトラブル対応を担った。また、実践後に、児童生徒向け及び教員向けアンケートを実施し、評価・改善をする見通しで推進日程を立てた。

(2) 取組の具体

【Google ドライブの活用】

各学級の実情や児童生徒の実態や目標に応じて、以下に示す学習を継続的に行った。

- ① 二次元コードの読み取りや動画視聴
配膳時に配付された二次元コードを読み取り、献立の説明書や動画の閲覧を行う。
- ② 写真や動画、文章からの情報読解
提示された写真や動画、「給食のお便利」の文章から、材料や作り方に関するやり取りを教師と行い、情報に注目したり情報の大体を捉えたりする。
- ③ 写真や動画の撮影、アップロード、コメントの入力
給食の感想や要望などに関する自分の思いや考えを表出する。



【動画を閲覧する生徒】



【二次元コードを読み取る生徒】

【Google forms の活用】

本取組に対するアンケートや希望する給食メニューに関するアンケート調査を実施した。

なお、アンケートの内容を理解しやすくするため、選択肢の項目にはイラストを添付する配慮を行った。

(3) 取組後の点検・評価、工夫改善

児童生徒向け及び教員向けアンケートを「Google forms」で実施した。児童生徒向けアンケートでは、「給食のお便利を見てどんな気持ち?」「何がしたい?」「何が知りたい?」といった質問に対して、自由記述を含めて3～5程度の選択肢を設けて実施した。教員向けアンケートでは、活用の状況や指導内容、要望等の聞き取りを行った。児童生徒からの動画が多い方が分かりやすいなどの意見や、教員からの共有する動画の時間についての意見を受け、工夫改善することとした。

(4) 改善後の取組

児童生徒向けアンケートの結果から、調理中の動画で材料の変化や調理工程を示す動画をより多く取り入れるよう工夫した。また、教員向けアンケートの結果から、共有する動画の時間やフォルダに保存するデータの数など、効果的であると想定される情報量を定め、改善した。

加えて、状況に応じて取組を工夫し、地域の企業から提供があった果物について、生産者のコメントを動画で紹介し、お礼の写真撮影や手紙の送付を行うなど、地域とのつながりに係る学習にも発展させた。

3 実践のポイント

- ・児童生徒の興味・関心が高い「給食」をICT活用場面に設定することが効果的な推進や普及につながった。
- ・ICTとアナログ教材を融合させた手立てとして、操作マニュアルの配付が有効であった。
- ・1単位時間の授業でICT活用を学ぶことが難しい実態の児童生徒においても、日常的に短時間から取り組むことができる実践であった。継続的な実施により、「情報へ注視し続ける」「興味がある部分を何度も再生したり、拡大表示したりして確認する」「コメント入力への意欲を示す」などの主体的な姿が見られた。